

PRESS RELEASE (2026/03/23)

BeCAT 設計の杉能舎「酒蔵ガルテン」の見学会開催

福岡市西区元岡にある明治3年創業の杉能舎（すぎのや）は、150年続く地域に受け継がれる酒蔵です。建物の老朽化に伴い、今後の在り方について九州大学大学院人間環境学研究院の環境をテーマにした建築研究教育センターであるBeCAT (Built Environment Center with Art and Technology、ビーキャット) に相談がありました。

令和3年8月に行われたBeCATのサマースクールにて歴史ある酒蔵を地域施設へとコンバージョンするという課題に取り組んだことから計画は始まり、学生の提案を元に改修案が決定されました。構造補強をしながら建物をリノベーションすることで、地域に開かれた酒蔵として生まれ変わったプロジェクトです。3Dレーザースキャニング技術を用いて測量をし、建物の歪みのデータの収集と分析が行われました。また明治期の蔵の解体材や古材など、蔵の古道具を出来る限り使用し、歴史の変遷や、この建物に流れてきた時間を新しい建物でも感じてもらえるような設計にしています。

そんな杉能舎の新生「酒蔵ガルテン」の見学会を以下のとおり開催します。

【日 時】令和8年4月24日（金）10時～11時半

【場 所】杉能舎（福岡市西区元岡 1442）

【参加費】無料（要事前申込）

【対象者】どなたでもご参加可能です。定員：40名

【参考方法】参加希望の方は4月20日（月）までに以下お問い合わせ先までご連絡ください。

BeCAT 副センター長

末廣教授からひとこと：

この酒蔵の5代目の店主さんである濱地さんご夫婦が大変面白い思考の持ち主です。杉能舎のテーマを【循環】とされ、土中環境に非常に興味をもたれています。近接する八坂神社の緑と連続するようなガルテン（ドイツ語で庭を意味します）を、雨の森さんという造園家たちと作り上げました。様々なものの循環を生み出す地域拠点を目指します。

上図：完成イメージパース。

店内から連続するガルテンの風景。

左図：3Dレーザースキャニングデータ。古代ローマ遺跡調査でも使用されています。

右図：古材をストックヤードに保管し、材種ごとに分けて、分類しました。垂木や檼板、床板など様々な種類の古材を新しいガルテンに採用しています。

